

## あなたの施設は大丈夫？

～入所者・利用者の体の中で結核菌がねむっているかもしれません～

### 結核は過去の病気ではありません！

結核は、1950年代をピークに急激に減少しました。しかし、最近は減少が鈍くなっています。南丹保健所管内（亀岡市・南丹市・京丹波町）でも、年間30～50人前後が新たに結核を発病しています。その約6割が65歳以上です。



### 結核って、どんな病気？

結核は、結核菌が原因でおこる感染症です。ですから、だれもが結核を発病する可能性があります。感染しても、必ず病気になるわけではありません。人間には免疫力があるので、病気にならないように結核菌を押さえ込むからです。

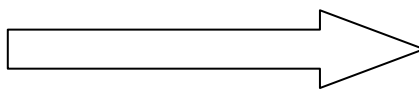
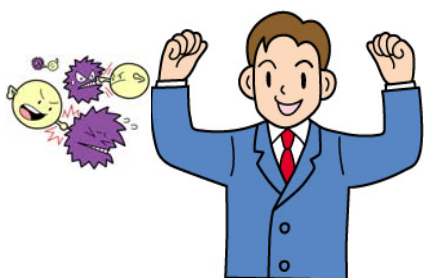
### 高齢者の結核が多い理由

今の高齢者が若い頃には結核が蔓延していました。そのため、結核菌を吸い込む機会が多かったと予想されます。免疫力で押さえ込んだ結核菌は、何十年も体の中でねむっているのです。ねむっていた結核菌は、体力の低下や糖尿病など免疫力が低下する病気のり患により動き出し、病気を引き起こしてしまいます。気付かないうちに結核に感染し、高齢になって免疫力が低下したときに、結核を発病する人が多いのです。

元気なときは  
感染しても発病しない

結核菌は  
何十年も  
ねむっている

免疫が低下すると  
発病しやすい



加齢  
糖尿病・腎機能低下  
胃切除など



## 高齢者の結核で気をつけること

### 高齢者は症状が出にくい

結核の症状は、せき・たん・発熱が一般的です。  
しかし、高齢者ではこれらの症状が出にくいといわれています。  
全身症状（体重減少・食欲不振）のみを訴える場合があります。



### 気をつけて！痰の多い高齢者のケア

高齢者の結核患者のうち半数は呼吸器症状がないといわれています。  
そこで！高齢者に痰の吸引を行う場合は、結核を発症している可能性を考慮し  
最低でもサージカルマスクを着用しましょう。

さらに、可能ならば個室で行うことが望ましいですが、難しい場合は吸引後に換気をよくおこなってください。

### 早期発見のポイント！年に1回は、胸のレントゲン検査を！

結核がひどくなると、患者さんのせきやたんのしぶきの中に結核菌が含まれるようになります。それを直接吸い込むことで感染します。

結核の発病を早期に発見できれば、周りの人に感染させる可能性を低くでき、入院せずに外来で治療ができます。

結核を発病しているかどうかは、胸のレントゲン検査で分かります。

年1回は、医療機関や市町の住民健診などで胸のレントゲン検査を勧めてください。

さらに、せきやたんの症状が2週間以上続く方や、急な体重減少、食欲低下がみられる方がおられましたら、早めに医療機関受診をお勧めください。

※ 社会福祉施設入所者(65歳以上)に対する結核定期健診は年1回施設長の責務で実施する。  
(感染症法 第53条の2)

### 結核を予防するために

感染や発病を予防するためには、

- ・十分に睡眠をとる
- ・過労に注意する
- ・規則正しい生活をする
- ・バランスのとれた食事をする
- ・適度な運動をする ことが大切です。



結核は感染症ですが、注意することは生活習慣病と大きく変わりません。  
常に健康に気を配り、年に1回の健康診断と早期受診を心がけましょう。

結核に関する御相談は・・・

京都府南丹保健所 保健室 感染症・難病担当

〒622-0041

南丹市園部町小山東町藤ノ木21

電話 0771-62-2979

FAX 0771-63-0609

